

生物学

講師	松尾公則	実施時期 単位数	第1学年前期 2単位 (30時間)	実務経験	—
一般目標 (GIO)	生体の構造を知るために、細胞の構造、働き及び生命現象に関する基本的知識を習得する。				
授業概要	進展がめざましい生命科学について、基礎的な知識を習得し、それを通して生物、ヒトを科学的に捉え、さらに生命について深く考えることができる態度を身につける。				
学習方法	講義・VTR視聴				
成績評価の方法	期末試験の結果を中心に、授業への参加度を考慮して評点を算出し、評価する。 筆記試験80%、小テスト、出席状況20%				
教科書	全国歯科衛生士教育協議会(監)最新「生物学」 医歯薬出版				
履修上の注意	生き物に関する知識を多く習得することは、ヒトとして幅広い考え方ができるようになるばかりでなく、歯科衛生士として不可欠であるので積極的に授業に参加して欲しい。				
参考書	視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 数研出版				

授業計画

No.	授業項目	到達目標 (SBOs)
1	生命の単位 細胞	生命の基本単位である細胞について説明できる。
2	細胞内には細胞小器官がある	細胞の構造と働きについて説明できる。
3	細胞のさまざまな活動	細胞内の酵素の働きやATPについて説明できる。
4	細胞の一生	細胞分裂と細胞周期を説明できる。
5	生殖により子孫をつくる	有性生殖と無性生殖について説明できる。
6	遺伝とその法則(I)	遺伝の法則性について説明できる。
7	遺伝とその法則(II)	性決定と伴性遺伝について説明できる。
8	生命をつくるしくみ(DNA)	DNAの構造と機能について説明できる。
9	遺伝子とDNA	遺伝子を働かせる仕組み(タンパク質合成)について説明できる。
10	動物は感覚器でさまざまな刺激を受容する	感覚器について説明できる。
11	神経系による刺激の伝達	神経系による刺激の伝達について説明できる。
12	体液と内分泌腺	ホメオスタシスと体液について説明できる。
13	自律神経とホルモンの協調	自律神経とホルモンの協調について説明できる。
14	生体防御(I)	生体防御の仕組みについて説明できる。
15	生体防御(II)	アレルギーや免疫の応用について説明できる。